

窈窕の章 淑女を歌う

ようちょう

(詩経国風 周南) 關雎 (壺齋散人)

この詩は、配偶者を求めて歌っていることから、中国人にとっては古来、婚礼の席で

歌うべきめでたい歌だとされてきた。

關關雎鳩 關關たる雎鳩は

在河之洲 河の洲にあり

窈窕淑女 窈窕たる淑女は

君子好逑 君子の好逑

參差行菜 參差たる行菜

左右流之 左右に之を流む

窈窕淑女 窈窕たる淑女は

寤寐求之 寤ても寐ても之を求む

求之不得 之を求むれども得ざれば

寤寐思服 寤ても寐ても思服す

悠哉悠哉 悠なる哉 悠なる哉

輾轉反側 輾轉反側す

參差行菜 參差たる行菜は

左右采之 左右に之を采る

窈窕淑女 窈窕たる淑女は

琴瑟友之 琴瑟もて之を友とせん

參差行菜 參差たる行菜は

左右撰之 左右に之を撰ぶ

窈窕淑女 窈窕たる淑女は

鍾鼓樂之 鍾鼓もて之を樂しましめ

和やかに鳴きあうミサゴの夫婦が川の州にいる、窈窕たる淑女は、ミサゴの妻のように、君子の妻とするに相応しいものだ。

生い茂った水菜は左右に求めて食卓を飾るべきものだ、窈窕たる淑女は、目覚めていても寝ていても、求めに求めて伴侶にすべきものだ。

窈窕たる淑女を求めて得ることができないならば、目覚めていても寝ていても残念に思うべきだ、ああ残念のあまり、身のもたえる思いがする。

生い茂った水菜は左右に摘んで食卓を飾るべきものだ、窈窕たる淑女は、琴瑟を以てもてなすべきものだ。

生い茂った水菜は左右に選び取って食卓を飾るべきものだ、窈窕たる淑女は、鍾鼓を以て楽しんでもらうべきものだ。